

事務連絡
令和6年8月7日

各都道府県(宮崎県を除く)・指定都市教育委員会学校保健主管課
各都道府県私立学校主管部課 御中
附属学校を置く各国公立大学法人事務局

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課
文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課

令和6年度全国学校保健・安全研究大会の開催について（依頼）

標記の件について、別添開催要項により開催しますので、関係者の参加についてよろしくお取り計らい願います。

なお、参加申込み等については、別途送付される宮崎県教育委員会からの案内により対応くださるようお願いいたします。

【本件連絡先】

- 学校保健関係
文部科学省初等中等教育局
健康教育・食育課保健管理係
TEL：03-6734-2976（直通）
- 学校安全関係
文部科学省総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課
安全教育推進室防災教育係
TEL：03-6734-2670（直通）

令和6年度全国学校保健・安全研究大会開催要項

1 趣 旨

近年の社会環境や生活環境の急激な変化は、子供の心身の健康に大きな影響を与えており、肥満・痩身、生活習慣の乱れ、感染症の拡大、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加、薬物乱用など、子供が抱える現代的な健康課題は多様化、複雑化している。また、身体的な不調の背景にはいじめや不登校、貧困などの問題が関わっていることもあり、子供に対するより一層のきめ細かな対応が求められている。さらには、本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震をはじめ、各地で発生する自然災害の他、登下校中を含めた事件・事故、SNS等の利用による犯罪など、子供達の安全を脅かす様々な事案が顕在化している。

これらの課題解決を図るためには、学校全体として学校保健・学校安全に取り組む校内の組織体制を整備するとともに、学校・家庭・地域が一体となり、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を推進していく必要がある。

本大会は多年にわたる研究成果を踏まえ、生涯を通じて心豊かにたくましく生きる子供の育成をめざして、諸課題について研究協議を行い、学校保健・学校安全の充実発展に資するものである。

2 主 題

生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進

～主体的に健康課題の解決に取り組み、学びを現在から未来につなげることができる子供の育成～

3 主 催

文部科学省、宮崎県教育委員会、宮崎市教育委員会、公益財団法人日本学校保健会、宮崎県学校保健会

4 後 援

公益財団法人日本教育公務員弘済会宮崎支部

5 期 日 令和6年11月7日（木）・8日（金）

6 開催方法

参集開催及び後日オンデマンド配信

※ オンデマンド配信は、「記念講演」と「課題別研究協議会」のみ配信

7 開催地及び会場

開催地 宮崎県宮崎市

会 場 シーガイア・コンベンションセンター

8 内 容

(1) 全体会

・ 開 会 式

・ 表 彰 式

学校保健・学校安全の功労者に対する文部科学大臣表彰を行う。

・ 記念講演

講演内容 「子供の身体活動・運動の現代的課題と解決策

～今、学校・地域・社会がやるべきことは何か？～」

講 師 東京大学大学院講師 鎌田 真光 氏

(2) 課題別研究協議会（別紙1）

10 課題について、課題別に研究発表、研究協議、指導助言及び講義を行う。

(3) 全国学校保健会中央大会

9 日程及び内容

【1日目】11月7日（木）

11:30	12:00	12:30	13:00	14:00	14:30	16:00
	一般参加者 受 付		【開会式】 【表彰式】	休憩		【記念講演】
	受賞者 受 付	受賞者 打合せ		【受賞伝達式】		

【2日目】11月8日（金）

9:00	9:30	12:00	13:00	15:30
受付	【課題別研究協議会】（5課題）	昼食 休憩	【課題別研究協議会】（5課題）	
			全国学校保健会中央大会	

10 参加対象者

- (1) 幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の校（園）長、副校（園）長、教頭、主幹教諭、保健主事、養護教諭、保健体育科教諭、安全担当、その他の教職員
- (2) 学校医、学校歯科医、学校薬剤師
- (3) 教育委員会の学校保健、学校安全関係職員
- (4) 学校保健会事務局の職員
- (5) P T A会員、その他都道府県・指定都市・中核市教育委員会で適当と認められた者

11 参加費（資料代含む）

3,000 円 ※参加形態を問わず一律

12 関係団体が主催する行事

- (1) 第 55 回全国学校保健・学校医大会 令和 6 年 11 月 9 日（土）
- (2) 第 74 回全国学校歯科医協議会 令和 6 年 11 月 7 日（木）
- (3) 第 74 回全国学校薬剤師大会 令和 6 年 11 月 7 日（木）

13 全体会及び課題別研究協議会・全国学校保健会中央大会会場

【1日目】令和6年11月7日（木）全体会・受賞伝達式

内 容	会 場
全体会（開会式・表彰式・記念講演）	シーガイア・コンベンションセンター 4F サミットホール（天蘭・天玉・天瑞）
受賞伝達式（学校保健表彰）	シーガイア・コンベンションセンター 4F サミットホール（天樹）
受賞伝達式（学校安全表彰・学校安全ボランティア活動奨励賞）	シーガイア・コンベンションセンター 4F サミットホール（天葉）

【2日目】令和6年11月8日（金）課題別研究協議会・全国学校保健会中央大会
〈午前の部〉 9：30～12：00（9：00開場）

内 容	会 場
第1課題（学校経営と保健組織活動）	シーガイア・コンベンションセンター 3F 海峰
第2課題（保健管理）	シーガイア・コンベンションセンター 4F サミットホール（天樹・天葉）
第3課題（心の健康）	シーガイア・コンベンションセンター 4F サミットホール（天瑞）
第6課題（学校環境衛生）	シーガイア・コンベンションセンター 3F 瑞洋
第9課題（教科等における安全教育）	シーガイア・コンベンションセンター 2F オーチャード

〈午後の部〉 13：00～15：30

内 容	会 場
第8課題（学校事故防止対策）	シーガイア・コンベンションセンター 3F 海峰
第7課題（喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育）	シーガイア・コンベンションセンター 4F サミットホール（天樹・天葉）
第4課題（現代的健康課題）	シーガイア・コンベンションセンター 4F サミットホール（天瑞）
第5課題（歯・口の健康づくり）	シーガイア・コンベンションセンター 3F 瑞洋
第10課題 （関係機関等との連携による安全の体制整備）	シーガイア・コンベンションセンター 2F オーチャード
全国学校保健会中央大会	シーガイア・コンベンションセンター 2F ファウンテン

※ 参加希望人数等により、会場を変更する場合があります。

14 大会会場へのアクセスについて

- 宮崎空港からお車でお越しの方
 - ～ 一ツ葉有料道路経由（約 25 分）
 - シーガイアエリア内の各施設全てに無料駐車場あり
- 宮崎空港から会場行きシャトルバス運行予定（参加申込フォームから予約可）
- 宮崎空港から電車を御利用の方（宮崎駅経由）
 - ～ 宮崎空港駅より JR 宮崎駅まで約 10 分
 - JR 宮崎駅からはバスまたはタクシーをご利用ください。
- 宮崎駅からバスを御利用の方
 - ～ JR 宮崎駅西 2 番乗場から宮崎交通「シェラトングランデ」行き又は「フローラ
ンテ宮崎」行き乗車約 30 分、「シェラトングランデ」下車、徒歩約 3 分
 - JR 宮崎駅より会場行きシャトルバス運行予定（参加申込フォームから予約可）
- 宮崎港からお車・タクシーでお越しの方
 - ～ 約 15 分、シーガイアエリア内の各施設全てに無料駐車場あり



フェニックス・シーガイア・リゾート HP : <https://seagaia.co.jp/>

【別紙1】 令和6年度全国学校保健・安全研究大会 課題別研究協議会

課題	研究協議題	研究協議題設定の趣旨	研究協議の内容
第1課題	学校経営と保健組織活動	心豊かにたくましく生きる力を育てるためには、児童生徒の発達の段階を考慮して学校教育活動全体で取り組む必要がある。 そのため、学校経営の進め方と保健主事等の果たす役割並びに学校、家庭及び地域社会が一体となった組織活動の効果的な取組について協議する。	① 健康教育を中核とした学校経営の進め方について ② 保健主事を核として推進する健康教育の進め方について ③ 学校、家庭及び地域社会が連携した学校保健委員会の効果的な取組について
第2課題	保健管理	生涯にわたり心身ともに健康な生活を送るためには、ヘルスプロモーションの理念を生かし、学校や地域の実態、個々の子供に応じた対応を図る必要がある。 そのため、学校での適切な保健管理の進め方について協議する。	① 適切な健康診断の実施と事後措置の進め方並びに結果の活用について ② ヘルスプロモーションの考え方を生かした指導や保健管理の進め方について ③ 感染症・食中毒等の予防及び発生時の対応について
第3課題	心の健康	豊かな人間性と社会性を育み、心の健康の保持増進を目指す教育の進め方 自然災害や重大な事件・事故の発生に伴う子供の心のケアや、友人や家族などの人間関係の悩みなど、メンタルヘルスに関する問題が多様化している中、これらの問題への適切な対応が求められている。 そのため、心の健康づくりを目指した教育活動や校内外の組織体制づくりの進め方について協議する。	① 児童生徒の課題に即した心のケアや健康相談の進め方について ② 心の健康づくりを目指した教育活動の展開と環境整備等の進め方について ③ 学校、家庭及び地域の関係機関との連携を図った心のケアの進め方について
第4課題	現代的健康課題	多様化する現代的健康課題に適切に対応するための保健活動の進め方 現代的な健康課題への対応にあたり、年齢や生活環境などに応じて、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要がある。 そのため、生涯にわたり健康を保持増進するための望ましい生活習慣づくりに関する指導の進め方について協議する。	① 発達の段階に応じた望ましい生活習慣づくりの進め方について ② 各教科、特別活動及び総合的な学習の時間等との関連を図った指導の進め方について ③ 学校、家庭及び地域社会が連携した望ましい生活習慣づくりに関する指導の進め方について
第5課題	歯・口の健康づくり	生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方 生涯にわたる健康づくりを実践するためには、自分の歯や口の健康に関心を持ち、自分の課題を把握し、解決していくことができる資質や能力を育てることが大切である。 そのため、歯・口の健康づくりを目指した学校歯科保健活動の進め方について協議する。	① 歯科健康診断の効果的な実施と結果等を活用した健康教育の実施について ② 各教科、特別活動及び総合的な学習の時間等との関連を図った指導計画の作成、実施、評価及び改善について ③ 学校、家庭及び地域社会が連携した学校歯科保健活動の進め方について

課 題		研究発表者	講師・指導助言者（コーディネーター）
第1課題	学校経営と保健組織活動	① 宮崎県宮崎市立赤江小学校 主幹教諭 工藤 美枝子	○講 師 日本女子体育大学 教授 横 嶋 剛 ○指導助言者（コーディネーター） 高島市教育委員会 学校教育課 主 監 中 原 いずみ
		② 熊本県立かもと稲田支援学校 養護教諭 森 山 基 子	
		③ 埼玉県川口市立岸川中学校 養護教諭 鈴 木 直 美	
第2課題	保健管理	① 沖縄県立泡瀬特別支援学校 養護教諭 白 井 紀 子	○講 師 九州看護福祉大学 准教授 松 崎 美 枝 ○指導助言者（コーディネーター） 横浜市教育委員会 健康教育・食育課 指導主事 吉 澤 千 春
		② 宮崎県延岡市立延岡中学校 養護教諭 脇 坂 望 美	
		③ 栃木県小山市立豊田小学校 養護教諭 須 藤 則 子	
第3課題	心の健康	① 宮崎県立高鍋農業高等学校 養護教諭 山 下 麻 依	○講 師 社会福祉法人別府発達医療センター 大分療育センター 所 長 清 田 晃 生 ○指導助言者（コーディネーター） 北海道教育委員会 健康・体育課 指導主事 篠 原 弥 智
		② 佐賀県佐賀市立城北中学校 教 諭 武 富 美 樹	
		③ 岐阜県白川村立白川郷学園 養護教諭 水 野 礼 菜	
第4課題	現代的健康課題	① 宮崎県宮崎市立木花小学校 指導教諭 三 角 友 香	○講 師 愛知教育大学 准教授 山 田 浩 平 ○指導助言者（コーディネーター） 岡山市教育委員会 学校教育部保健体育課 課長補佐 寺 尾 知 浩
		② 青森県立八戸高等学校 養護教諭 山 口 明 子	
		③ 福岡県うきは市立浮羽中学校 養護教諭 富 田 美 里	
第5課題	歯・口の健康づくり	① 宮崎県宮崎市立瓜生野小学校 養護教諭 木 場 ゆ り	○講 師 明海大学 名誉教授 安 井 利 一 ○指導助言者（コーディネーター） 栃木県教育委員会 健康体育課 課長補佐 那 須 野 親
		② 大阪府立貝塚高等学校 養護教諭 安 部 昌 美	
		③ 国立大学法人鹿児島大学教育学部附属 特別支援学校 養護教諭 糸 知 子	

課題		研究協議題	研究協議題設定の趣旨	研究協議の内容
第6課題	学校環境衛生	快適な学校環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方	<p>快適な学習環境をつくるためには、環境衛生活動の充実を図るとともに、教職員及び児童生徒が学校における環境衛生について関心を持つことが必要である。</p> <p>そのため、学校環境衛生基準を踏まえた学校環境衛生活動の進め方について協議する。</p>	<p>① 計画的・組織的な学校環境衛生活動の実施と事後措置について</p> <p>② 学校環境衛生管理の徹底を図るための取組について</p> <p>③ 学校薬剤師との連携による学校環境衛生の取組について</p>
第7課題	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育	安全で豊かな社会と健康を守り育てるための喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方	<p>青少年の喫煙や飲酒、薬物乱用は、様々な健康影響を引き起こしたり、事故等の社会的な問題の要因となったりすることから、学校の教育活動全体を通じて指導が行われる必要がある。</p> <p>そのため、発達段階を考慮した、喫煙や飲酒、薬物乱用の効果的な防止教育の進め方について協議する。</p>	<p>① 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育に関する指導計画の作成、実施、評価及び改善について</p> <p>② 小学校、中学校、高等学校における喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方について</p> <p>③ 学校、家庭及び地域社会が連携した喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方について</p>
第8課題	学校事故防止対策	事件や事故、災害を未然に防ぐ事前の危機管理や発生時の適切な対応について	<p>学校事故を未然に防ぐためには、日本スポーツ振興センター災害共済給付データを活用した事故分析手法を各学校で生かすとともに、同センターの調査研究についての理解を深める必要がある。</p> <p>また、事故検証やそれに基づいた再発防止策の立案と実施、継続、情報発信等の方法について協議する。</p>	<p>① 日本スポーツ振興センターの災害共済給付データを活用した安全対策について</p> <p>② 事件や事故、災害の検証に基づいた再発防止対策の在り方について</p> <p>③ 事件や事故、災害を未然に防ぐ事前の危機管理や発生時の適切な対応について</p>
第9課題	教科等における安全教育	発達の段階に応じた効果的な安全教育について	<p>生涯にわたり安全な生活を送るためには、自他の生命尊重の理念を基盤として、進んで安全で安心な社会づくりに貢献できる資質や能力を育成する必要がある。</p> <p>そのため、発育発達の段階における特徴を考慮しつつ、効果的な安全教育の進め方について協議する。</p>	<p>① 安全で安心な社会づくりへの参画を意識し、自らの責任を自覚して行動する児童生徒の育成について</p> <p>② 的確な判断のもと主体的に行動し、地域の安全活動等に参加する児童生徒の育成について</p> <p>③ 自らの安全を守るために主体的に行動し、他の人々の安全にも気配りができる児童生徒の育成について</p>
第10課題	関係機関等との連携による安全の体制整備	学校・家庭・地域が連携した効果的な安全体制整備の在り方と通学路における安全確保の方策について	<p>学校安全体制を充実させるためには、校内体制を整備するとともに、関係機関や地域ボランティア等との連携を深めることが重要である。</p> <p>そのため、学校、家庭及び地域社会が連携した効果的な安全体制整備や安全確保方策の在り方について協議する。</p>	<p>① 学校安全充実のための効果的な校内体制の在り方について</p> <p>② 関係機関や地域ボランティア等との連携による防犯・交通安全の体制整備について</p> <p>③ 関係機関や保護者・地域住民等との連携による災害安全の体制整備について</p>

課 題		研究発表者	講師・指導助言者（コーディネーター）
第 6 課 題	学校環境衛生	① 鹿児島県立鶴丸高等学校 養護教諭 森 山 直 美	○講 師 法政大学スポーツ健康学部 教授 鬼 頭 英 明 ○指導助言者（コーディネーター） 栃木県教育委員会 健康体育課学校保健・給食担当 主 査 泉 聡 美
		② 宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 養護教諭 河 野 由 妃 学校薬剤師 細 川 寧 子	
		③ 和歌山県橋本市立高野口中学校 養護教諭 的 場 三 幸 学校薬剤師 西 前 多 香 哉	
第 7 課 題	喫煙、 飲酒、 薬物乱用 防止教育	① 宮崎県立みやざき中央支援学校 教 諭 杉 尾 拓 也	○講 師 京都女子大学心理共生学部 心理共生学科 教 授 西 岡 伸 紀 ○指導助言者（コーディネーター） 岐阜県関市立南ヶ丘小学校 校 長 長 瀬 仁 美
		② 大分県大分市立植田南中学校 教 諭 松 下 昌 史	
		③ 京都市立東山泉小中学校 養護教諭 宇賀神 恵 里	
第 8 課 題	学校事故防止対策	① 独立行政法人日本スポーツ振興センター 災害共済給付事業部調査課 課 長 谷 雅 紀	○講 師 大阪教育大学 教授 学校安全推進センター センター長 藤 田 大 輔 ○指導助言者（コーディネーター） 石巻市教育委員会 学校安全推進課 指導主事 藤 原 美 和
		② 大川市教育委員会学校教育課 主幹指導主事 藤 岡 忠 司	
		③ 枚方市教育委員会 学校教育部支援教育課 主 幹 大 野 晴 彦	
第 9 課 題	教科等における安全教育	① 宮崎県高原町立広原小学校 教 諭 野 邊 純 敬	○講 師 岩手大学 准教授 本 山 敬 祐 ○指導助言者（コーディネーター） 岩手県教育委員会 学校教育室 主任指導主事 桂 康 博
		② 福岡県新宮町立新宮東中学校 校 長 藤 田 勉	
		③ 兵庫県立明石北高等学校 教 諭 梶 田 順 子	
第 10 課 題	関係機関等との連携による安全の体制整備	① 岡山市立高島公民館 高島小学校運営協議会会長 中 江 岳 高島公民館主任 小 槇 祐 子	○講 師 特定非営利活動法人まちと学校のみらい 代表理事 文部科学省CSマイスター 竹 原 和 泉 ○指導助言者（コーディネーター） 長野県立梓川高等学校 教 頭 藤 村 ゆかり
		② 長崎県壱岐市立田河小学校 教 諭 牧 山 文 幸	
		③ 宮崎県立門川高等学校 教 諭 武 石 裕 介	

【別紙2】

課題別研究協議会の午前・午後の割り振りについて

令和6年11月8日(金)	午前 (9:30~12:00)		午後 (13:00~15:30)	
会場	課題	内容	課題	内容
海峰	第1	学校経営と 保健組織活動	第8	学校事故防止対策
天樹・天葉	第2	保健管理	第7	喫煙、飲酒、 薬物乱用防止教育
天瑞	第3	心の健康	第4	現代的健康課題
瑞洋	第6	学校環境衛生	第5	歯・口の健康づくり
オーチャード	第9	教科等における安全教育	第10	関係機関等との連携に よる安全の体制整備

※ 今後、会場等が変更になる可能性もあります。